

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600979		
法人名	株式会社 吉兆		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	福岡県久留米市荒木町白口2324-1		
自己評価作成日	令和4年12月3日	評価結果確定日	令和5年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、運営推進会議も書面での「やり取り」で実施し、以前より出席がなかった長生会(老人会)に入会し研修参加等を通じ現在は名前も覚えてもらっている</li> <li>・ペーパーレス化に法人でも取り組んでおり記録はもちろん出勤簿もデジタル化している</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所以来の「人が人として生きる喜びを心に感じながら共に暮らせる時間と場所づくり」との理念をエレベーター前や各ユニットに掲示し、日々理念の具現化に努めている。入居に至る経緯や生活歴、心身の情報、月2回のケアカンファレンス内容をチャットで共有し、日々のケアに活かしている。昨年は居室にソファを入れ家族が詰めることができるように配慮しながら、かかりつけ医との連携で2名の方を看取り、家族から「このような時期に最期まで良かった」と謝辞があった。法人全体でオンライン研修を実施し、週1回の法人会議では他部門の管理者と目標設定や困り事などを話し合う体制を構築し、人材育成に尽力している。コロナ禍の中、運営推進会議は書面報告ではあるが、居室での面会や外泊、家族との外出を支援し、運営者は地域の方々と公園の清掃活動を継続する等、地域密着型サービスが展開している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 1F/グループホームふきのとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在も玄関、フロア入り口に掲示し理念について全職員がいつでも見えるようにし常に実践に繋げるように意識づけを行っている	開所以来の理念である「人が人として生きる喜びを心に感じながら共に暮らせる時間と場所づくり」を、エレベーター前や各ユニットに掲示し、月2回のケアカンファレンスで、個々の入居者のベースや心身の状況に沿った支援を話し合い、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は敬老会や地域の祭り等に参加し交流を保っていたが 現在のコロナ禍という事もあり 交流ができていない	敷地内に自宅がある運営者は、月1回地域の方々と公園清掃を継続している。運営者は、自治会だけではなく、昨年夏は老人会にも加入し、地域の情報などを朝の申し送り時に伝達している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のコロナ禍により 地域との交流自体が難しくなっているが 今後も感染症の心配がなくなれば実習生の受け入れや地域交流の場等の提供をしていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍なので対面での開催は出来ていないが 2ヶ月に1回の書面開催を行い意見やご相談等を書面にて受け付けている	今年度も、市担当者や民生委員など13名のメンバーに入居者の暮らしぶりや運営状況などを書面で報告し、返信用封筒を同封している。メンバーからはセンサー使用に関する意見や感染対策への慰労の言葉が寄せられ、会議録は玄関で公表している。	運営推進会議設置目的に勘案し、家族に運営推進会議開催の案内や会議内容等を報告するとともに、家族の参加を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所からのメールや送付書類等の確認を常に行い 互いに質問等行い協力関係築くようにしている	居室の空き情報を地域包括支援センターに報告している。入居に至ったことはないが入居の相談があるなど、日頃から情報提供や協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や話し合いを定期的に行い 身体拘束ゼロに取り組んでいる どうしても、必要な際は全職員に周知 御家族への同意を取り行い 早期解除に努めている	月2回の職員会議で身体拘束について話し合い、法人全体で身体拘束に関するオンライン研修を実施している。現在、止むを得ない拘束はなく、「待ってください」は〇〇分と説明し、納得できる声かけを実践している。家族の了解を得て、夜間のみセンサーを使用している入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で研修等の定期的な実施等を行い虐待等の勉強会を各事業所でも行い 虐待の目チェックリスト等を使用し各自の意識高め 常に意識してケアに当たるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会があり 日々の学習を活用できるようにしている	入居時から成年後見制度を活用されている方もあり、社内研修で制度に関する研修を実施している。定期的に来訪される後見人や保佐人に、当該入居者の暮らしぶりを報告している。	日常生活自立支援事業に関する資料の整備や研修を開催し、入居時や状況に応じて説明や支援できる体制づくりを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー等が契約書に基づいて説明を行い 理解できるように質問等もできるように理解納得できるように行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々利用者の声を共有し反映できるかどうかの検討等を行っている。また、面会時や電話での家族への現況報告等を行い 家族の意見や考えなど聞ける機会を設けている	面会は予約制で、居室で少人数でお願いし、正月には外泊した入居者もある等、家族の意見を運営に反映している。今後は個別の暮らしぶりや写真を掲載したホーム便りを発行予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議とチャットにアンケートなど実施し 意見交換等の機会を設けている	月2回の職員会議は時間外のため、賃金を補填し、活発な意見はチャットで共有している。夜勤時間は法人内で同じにしてほしいなどの要望があったり、今年から休暇は1ヶ月10日とすることなどを周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の定期的な実施を行い 問題点等に対して解決できるように努めており、常に把握できるようにしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、国籍、年齢等を問う事はなく 本人のやる気や目標 専門職としての意識等の確認を行い採用を行うようにしている	20代～60代までの男女の職員が、民間求人サイトや法人内の異動で就労し、日勤や夜勤のみなど個々の状況に応じて勤務している。法人全体でオンライン研修を実施し、認知症実践者研修受講者もある。週1回開催される法人会議に出席している管理者は、他部門の管理者と目標設定や困り事などが話し合え、心強いと話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等で定期的に勉強会を行い 全職員の周知共有できるように務めている	法人内で接遇やマナー、コンプライアンスに関するオンライン研修で、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。大声はないが、職員の気になる言動はその場で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、off-JT研修を職員全員が受講できるように年間でのスケジュールをたて 日々の業務に活かせるようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在もコロナ過であるため交流会等の参加は出来ていない		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に現在の困り事等の聞き取りを行い どのような支援が必要かの検討し共有を行い スムーズに入居され 不安等の軽減に力を入れ関係づくりを行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に困っている事や問題と思われる事の情報を聞き取りし どのような関わりが必要か等の検討を行いながら 入居後も御家族の意見等を聞き取りしながら関わっていくようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の現在の困り事等の聞き取りも定期的に行い色々なサービスの方法の提案等ができるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自己決定の中 支援の要する事要しない事を見極め一方的なサービス提供になる事の無いように努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の意向等は大切に 実現可能な限り 御家族と本人の関わりを持てる機会を提供すると共に支援できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり 対面等の面会 外出は御家族や親しい友人までと制限は現在もあるものの緩和時には御家族にはもちろん 本人が馴染のある方と関わりを持てる様支援していきます	毎日伴侶から電話がある入居者もある。家族に電話したいとの要望に応えたり、正月外泊し家族と過ごした入居者は、帰園後3日間自室で経過を観察するなどの感染対策を講じ、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍ではあるが パーティション等の利用にて飛沫感染対策を行いながら 食事の時間やおやつ等の時間等は同フロア利用者と一緒に時間の食事提供等を行っており職員も間に入り会話等の時間の提供が出来るように務めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁がありできた関係性は大切にし いつでもお互いに相談したりされたりしやす良いように努めている		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション等で個々の思いや希望を聞き取りすように心がけている意思決定できない方には 介護者本位にならないように本人本位の介護支援提供に努めている	チャットで入居に至る経緯や生活歴、心身の情報を共有している。日頃の関わりで、思いや意向を把握し、ミーティングで検討し成果を検証している。食事量の減少にソフト食が検討されたが、成果が少なく普通食に戻している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣等や生活環境は 情報の共有をチャット内でいつでも確認できるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化等の気づきをチャットや申し送りにて情報の共有を行い常に把握できるように務めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の声や改善点等は毎月の職員会議にて話し合い現状に適した介護計画をその都度作成している	書面で把握した家族の意向を介護計画に反映し、精神科デイケアの利用で、下肢筋力低下や腰の痛みを予防している入居者もある。チャットでケアカンファレンスで話し合った内容を共有し、日々のケアに活かしている。	具体的で容易にモニタリングできる短期目標やケア内容を組み入れた介護計画の作成で、より現状に即した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等の記録はもちろんの事。個々のチャットにて気づきや変化等の常に共有し 介護計画の見直しに役立ててる		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の現在の状況に応じて 今現状必要な支援等の提案や話し合い等を行い 実施できるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が難しい		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関等の紹介等を行い管理者家族で話し合い診療が常に受ける事ができるように支援している	希望があれば入居前のかかりつけ医受診も支援するが、現在は全入居者が4か所の協力医療機関から訪問診療を受けている。チャットなどで入居者の情報を提供し、夫々のかかりつけ医から適切な指示やアドバイスを受けている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護にも連携してもらい個々の精神面や体調面等の相談や情報共有を行い 適切な受診等の対応ができるようにしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや医療従事者、家族と情報共有を行い、退院後も安心して生活できるように、介護士と医療関係者が協力して支援出来るように努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	連携医療機関の助言等を確認し御家族の意見や気持ちに寄り添う事ができるように事業所での可能なケアを検討し提供して行くように努めている	ホームでの看取りを希望される方がほとんどで、昨年は居室にソファを入れ家族が詰めることができるように配慮しながら、2名の方を看取り、家族から「このような時期に最期まで良かった」と謝辞があった。今後も医療と連携しながら、看取りをできるように研鑽したいと管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体でも研修等をお実施しており マニュアルの作成見直し等も行い職員の実践力の獲得に努めている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での研修等定期的に行い マニュアルの基担当者を中心に避難訓練の実施も行っている	非常通報システムの稼働、日中や夜間を想定した避難訓練を実施し、消防署に報告している。階段を使用した避難手順を動画で研修し、避難した入居者の見守りが課題との意見もあった。飲料水を確保し、グローブや防御衣などの感染予防グッズを備蓄している。	食料品等の備蓄の検討とともに、昨年入居者や職員が新型コロナウイルス感染症に罹患した経験を活かし、自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画の策定を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場合により、親しみのある方言等の声掛けを行ったりすることも時にはあるが 基本的には敬語であったり尊敬語での声かけを行うように取り組んでいる	氏名で呼称しているが、中には馴染みのある名前で呼称する入居者もある。難聴で自室で過ごすことが多い入居者には訪室や声掛けを介護計画に組み入れている。夫々の個人情報に配慮し、居室A、B、Cで申し送りを行っている	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より 職員と利用者の話しやすい雰囲気作りで心掛け 利用者の方の声や思い等を共有し 本人の望む時間提供が出来るように働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好み志向を理解し それに出来る限り沿ったサービス提供に心がけている 色んな計画を立てても本人に自己決定していただくようにしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が日頃から大事にしている習慣(お手入れ等)には本人のペースで行ってもらったり 自分で衣類の選択が出来る方にはご自分の好みで選んで着ていただくように支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はコロナ禍という事もある為、食事準備は職員が最低限の人数で行っているが 食事後の食器洗いやお盆拭きなどは一緒に手伝って頂いたりし また盛り付けも美味しく見えるように工夫しながら行っている	全食が業者委託で、嚥下や咀嚼に応じてソフト食もあり、職員が温めて提供している。イベントでケーキを作ったり、レクリエーションで好評だった焼き芋を、去年は職員が自宅で作って持参するなど、食べる楽しみを支援している。	食べる楽しみや入居者の力を活かすために、おやつ希望を把握する機会や実践する場作りを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重等の増加等指示が出た時は素早く情報共有し 一人一人の食事摂取量の把握と共に偏りのない栄養バランスの提供に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんの事 毎週歯科訪問診療があり 口腔ケアの指導 利用者個々の口腔ケアの行い方等も考慮し行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ対応をなるべく減らすように検討を行うようにしており 夜間のオムツ使用している方でも 自力でトイレに行く事ができなくても日中はおむつなしでのトイレ誘導を行うように支援している	排泄が自立している入居者や夜間のポータブルトイレの使用もあるが、日中は声かけや誘導、2人体制でトイレでの排泄を支援している。1階の自室の窓からの放尿には、模様替えが功を奏し、自室前のトイレを使用できるようになっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医への指示の基、必要に応じた内服調整のほか水分提供時は嗜好品を用いたり工夫して行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日の固定はあるが 一人一人のタイミングや好きな温度調節などに配慮しながら 本人の好みのペースで実施できるように努めている	浴槽の跨ぎなどが困難でシャワー浴の入居者もあるが、週3回を目途に入浴を支援している。「(異性には)介助されたくない」に応え、「早く(午前中)入って申し訳ない」や入浴拒否もあるが、声かけなどの工夫で、入浴後は良い笑顔となっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣で就寝時間の自由であったり 声かけ等を行い安心して安眠できるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や個々の内服薬等がすぐ確認できるようにファイリングしており 服薬変更時はチャットでの情報共有と共に症状の変化等の観察記録等行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の時間の過ごし方の自由であったり生活歴から得た情報等を知り一緒にできる事を探して行ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍という事もあり 本人の外出等もできていなかったが 現在は御家族協力の基 少しづつ実施できている	正月は、車イス入居者もあるため同じ神社ではないが、全員が初詣をしている。外泊して家族とともに正月を過ごしたり、家族と馴染みの美容院に出かけるなど、本人や家族の意向を支援している。日頃はホームを一周できる園庭の散歩に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事での安心感がある方もおられるので高額ではないが自己管理されている方もおられる。また、移動販売等のサービスも利用しており希望の方のおやつ購入などの支援等は行っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り本人の出来る時間に電話等が出来るようにサポート支援行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の清潔保持と共に遮光カーテンで眩しすぎないように等注意しながら 湿度室温も常に調整しながら快適に過ごせるようにしたりして過ごしてもらっている	玄関の下駄箱上には若き日の上皇様御一家の写真や干支の兎の置物が飾られている。玄関の壁には入居者の写真が職員のコメント付きで掲示され、居間の大きなガラス窓越しに生簀の金魚が観え、春には園庭の桜を愛でることができる。居間で穏やかに夕食前の時間を過ごす入居者の姿があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア横の廊下にはソファや椅子の設置を行い 利用者同士が自由に座れる空間づくりを行っている 利用者同士会話したり思い思いに過ごしてもらっている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用した家具や衣類等持ち込んで頂き本人様の動きやすい親しみやすい居室を作ってもらい 居心地よく過ごせるようにしている	2名の担当職員が居室の清掃や衣替え、家族との連絡に関わり、夫々が居心地よく暮らせるように支援している。テレビやタンスが持ち込まれ、家族の写真や職員と一緒に作った作品が壁に飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の分かる目印をつけたり 居室の間違い等がないように工夫したり トイレ場所もわかりやすく表札等を書き本人が自立した生活が出来るように工夫している		